

令和4年度 第1回 八千代市立郷土博物館協議会会議録

会議名 令和4年度第1回八千代市立郷土博物館協議会

日時 令和5年1月26日(木)

開会 午前10時00分

閉会 午前11時40分

会場 八千代市立郷土博物館学習室

報告事項

- |           |                       |     |
|-----------|-----------------------|-----|
| (1) 令和3年度 | 八千代市立郷土博物館事業報告        | 資料1 |
| (2) 令和4年度 | 八千代市立郷土博物館事業報告(中間)    | 資料2 |
| (3) 令和5年度 | 八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子) | 資料3 |

視察

- (1) 令和4年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～昔の道具とくらし～」

出席者

委員 久留島 浩 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 特任教授  
前国立歴史民俗博物館長

齋木 健一 千葉県立中央博物館分館 海の博物館 分館長

鈴木 利明 八千代市立村上北小学校長

八巻<sup>やまき</sup> 憲一 八千代市子ども会育成連絡協議会会長

小林 弘治 学校法人 聖書学園 千葉英和高等学校 非常勤講師

事務局 教育長 小林 伸夫  
教育次長 山本 博章  
文化・スポーツ課長 米ノ井 正樹  
館長 中村 元重  
副主幹 小林 伸一  
主査補 安藤 茂和  
主任主事 常松 成人  
資料調査研究員 野中 政博  
資料調査研究員 川名 瑞希

公開・非公開 公開

傍聴人定数 5名

傍聴人 0名

会議録

開会

○**小林副主幹** 郷土博物館の小林です。時間となりましたので、ただ今から令和4年度第1回八千代市立郷土博物館協議会を開催させていただきます。

「八千代市立郷土博物館協議会運営規則」（平成12年5月31日教委規則第8号）第3条第2項により、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」とあり、本日は5名全員の委員の御出席をいただいておりますので、会議として成立しております。

なお、当協議会は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第3条に基づき公開対象となっておりますが、本日傍聴される方はいらっしゃいません。

当協議会は、昨年度に委員へのご就任をご承諾いただきましたが、本日が今期初めての開催となりました。このため、現時点では会長が未選出であることから、会長名での会議出席依頼ができず、また、本日の議長も不在であります。したがって、議長が選出されるまで、私が進行を務めさせていただきます。

初めに八千代市教育委員会の小林伸夫教育長から、ご挨拶を申し上げます。なお、教育長は、公務のため10時55分前後に退席させていただきますことをご了承ください。

では、小林教育長、よろしく申し上げます。

## 1 教育長あいさつ

○**小林教育長** 令和4年度第1回八千代市立郷土博物館協議会の開催にあたりまして、一言、あいさつ申し上げます。

委員の皆さまにおかれましては、公私ご多忙のなかご出席いただき感謝申し上げます。

また、昨年7月に今期の委員改選が行われましたが、委員への就任をご承諾いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、郷土博物館においても、臨時休館や一部事業の中止、活動内容による制限、入館者数の制限等の措置が取られ、利用者の方にご不便をおかけしている状況となっておりますが、現在ではWithコロナ社会に向けた様々な取り組みが進められ、今後は観覧者、講座参加者等が少しずつ増えていくことが予想されます。

また、博物館法の一部が改正され、全ての博物館が、設置者にかかわらず、望ましい博物館に向けて自らの運営を改善することを促すとともに、博物館の「底上げ」と「盛り立て」を図る博物館の登録・指定制度や博物館と地方公共団体、学校、社会教育施設等の関係機関・民間団体が相互に連携を図るよう努める事を規定し、博物館が地域の活力の向上に果たす役割を期待した博物館法が、令和5年4月1日から施行されます。

そのような中で、八千代市立郷土博物館では、本市の自然・歴史・文化・産業などに関わる資料の、収集・保管・管理・調査を行い、展示・公開などの事業を通じて、これらを未来に継承するという重要な役割を担う事を目的に、様々な業務にあたっており、今後も企画展や講座、学校の出前授業、児童・生徒の来館案内等による利用者の皆様の各種機会の提供を行っていくとともに、博物館法の改正にとともなう対応も進めていきたいと考えております。

本日は、報告事項といたしまして、3年度の事業報告、4年度の事業の中間報告、そして5年度の事業計画（案）等に対し、委員の皆様から、忌憚のないご意見をいただく機会を設けさせていただきましたので、委員の皆様には、重ねて活発なご意見をお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

○小林副主幹 ありがとうございます。それでは、本日、ご出席の各委員の皆様の紹介をさせていただきます。

○出席委員 5名 (久留島委員→斎木委員→鈴木委員→小林委員→八巻委員の順に紹介)

## 2 委員長・副委員長選任

○小林副主幹 引き続き、委員長・副委員長の選出を行わせていただきます。

八千代市立郷土博物館協議会運営規則第2条に、「博物館協議会に委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選によってこれを定める。」とあります。

各委員の皆様からの自薦、ご推薦がありましたら、ご発言ください。

○鈴木委員 (挙手)

○小林副主幹 鈴木委員、お願いします。

○鈴木委員 委員長に博物館に関するご経験・知識が豊富な久留島委員、副委員長に斎木委員を推薦します。

○小林副主幹 ただいま、鈴木委員から推薦のありました、「委員長を久留島委員、副委員長を斎木委員」という提案に対し、皆様、いかがでしょうか？

○出席委員 5名 異議なし。

○小林副主幹 皆様の「異議なし」とのご発言をいただきましたので、委員長に久留島委員、副委員長に斎木委員が選出されました。久留島委員は委員長席のほうへご移動をお願いいたします。

(久留島委員長が委員長席に移動)

○久留島委員長 久留島でございます。1998年から国立歴史民俗博物館に勤めておりまして、20年ほど博物館に勤めていました。現役ではございませんけれども、博物館での経験を生かして、微力ながら八千代市立郷土博物館の一層のご発展のお役に立てればというふうに思っておりますので、どうかよろしくをお願いいたします。

それでは、斎木副委員長のほうからもお話をお願いいたします。

○斎木副委員長 千葉県立中央博物館海の博物館分館の分館長をしております、斎木と申します。あちらの博物館も、学芸員の数がそれほど多くないというこちらと似たような館になります。先ほど教育長さんからお話がありましたように、博物館法改正という時期になりますので、わたくし自身も勉強させていただきつつ、こちらの博物館もよりよい発展を遂げますよう、お役に立てればと思っております。よろしくをお願いいたします。

## 3 議題

○久留島委員長 それでは、令和4年度八千代市立郷土博物館協議会を開催いたします。

本日の審議事項等に関する資料も事前に送られご覧になっていらっしゃると思いますので、できるだけスムーズに会議を進めさせていただきたいと思っております。

はじめに、議題(1)として、「令和3年度事業報告」が提出されております。議題(2)「令和4年度事業報告(中間報告)」が提出されておりますけれども、事業報告ということでは同じでございますので、議題としてはひとまとめにしたいと思っております。それでは、事務局から(1)、(2)の議題について説明をお願いいたします。

(1) 令和3年度八千代市立郷土博物館事業報告

○中村館長 それでは、事務局の方より（１）令和３年度八千代市立郷土博物館事業報告及び（２）令和４年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間報告）について資料１・２を使って報告させていただきます。

令和３年度の八千代市立郷土博物館の事業について報告いたします。資料１の項目「２ 資料」からご説明させていただきます。①収蔵資料は、民俗資料や写真資料などが全部で４６，７８７点の収蔵数でした。②資料の修補は、定期的に修補を１０回行いました。③図書資料については他市などから寄贈された図書類を新たに３４９冊追加しました。

「３ 調査研究」については、４年度の企画展に向けた調査を中心に７回実施しました。

「４ 展示」については、①常設展示が新川流域を中心とした八千代の自然・歴史・文化・産業（以下略）となっておりますが、民俗のレイアウトを一部変更しました。②企画展については「印旛沼南西岸の縄文文化～やちよの縄文～」と「収蔵品展 八千代を語るものたち」の２つを実施しております。③特別展示を県の巡回展となる「らくがく縄文館 一縄文土器のマナビを楽しむ～」と「くらしのうつりかわり展 ～学びを支えたもの～」の２つを実施しました。それ以外の④ロビー展示として３つの事業を実施するとともに⑤博物館で活動している同好会の連携展示として２つの作品展示を実施しました。

「５ 学校連携」につきましては①小中学校の出前授業や来館見学で８０件の依頼がありました。②博物館教育への協力として学芸員資格取得予定者の博物館実習受入を７大学７名で実施しました。

「６ 市民学習の支援」については、さまざまな講座や体験、解説会、観察会などを行いました。代表的なものとして企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのそれぞれのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子供向けにはなりますが昔遊び体験やものづくり体験などを実施しました。

「７ 地域協働」については、令和３年度についても大学と連携した伝統装束体験を実施予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響により中止となってしまいました。しかし公民館や図書館との連携事業として講座や現地解説会などを実施し関係機関との連携を強化しました。

「８ 広報」については、市のホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。

令和３年度の事業報告は以上になります。

## （２） 令和４年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間報告）

○中村館長 引き続き令和４年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間報告）について報告いたします。こちらの方は資料２を使ってご報告いたします。「２ 資料」の①収蔵資料は民俗資料や写真資料などが１２月末時点で全部で４６，８６２点の収蔵数でした。②資料の修補は、定期的に修補を行い全部で１１回行いました。③図書資料については新たに２６５冊を追加しております。

「３ 調査研究」については、地元の民俗の調査を中心に６回実施しました。

「４ 展示」につきましては、①常設展示は説明板等を読みやすいように一部変更しました。②企画展については「富士をのぞむ～八千代に残る富士山信仰～」を１回実施しました。③特別展示は「八千代市の動物」と「くらしのうつりかわり展 ～昔の道具とくらし～」の２つの事業を実施しました。それ以外の④ロビー展示として２つの事業を実施しています。⑤博物館で活動している同好会の連携展示として２つの作品展示を実施しました。

「５ 学校連携」につきましては①小中学校の出前授業や来館見学等で２８件の依頼がありました。②博物館教育への協力として例年実施していた学芸員資格取得予定者の博物館実習についてはですね、学芸員資格者が減ってしまったことから、今年度は実施の予定はございません。

「６ 市民学習の支援」については、さまざまな講座や体験、解説会、観察会を行いました。今年度も昨年に引き続き、企画展の内容や解説会、講習会、講演会、古文書などの講座を実施してお

ります。また、八千代市の自然を学ぶ自然観察会や子ども向けの昔遊び体験やものづくり体験等を同じように実施しております。

「7 地域協働」については、昨年度まで新型コロナウイルスにより中止となっていました多文化交流in八千代を実施しました。同じく中止となっていた伝統装束体験も開催の予定としています。公民館や図書館との連携も今年も実施しております。

「8 広報」についても引き続き、市のホームページや広報やちよ等での情報発信を実施しました。令和4年度八千代市立郷土博物館事業の中間報告は以上になります。私からの概要説明は以上になります。

代表的な企画展の説明として、令和4年度に実施した企画展について、川名より説明。その後、学校連携事業については小林より説明。最後に資料整理の状況として古文書の整理状況を野中より説明いたします。

**○川名資料調査研究員** 私、川名の方から、今年度開催いたしました企画展示「富士をのぞむ～八千代に残る富士山信仰～」についてご報告させていただきます。

今回の展示は、八千代市内における富士山信仰について、一般市民を対象に広く概要を紹介することを目的に開催いたしました。八千代市米本で活動を続けている富士講の調査記録や、当館で収蔵している市内の資料、また市内に残る富士山信仰関係の石造物などを紹介し、富士山信仰が八千代市内の全域で盛んに行われてきたことを紹介いたしました。

また、富士山信仰とはどのようなものなのかという基礎的な内容から紹介するため、富士山の麓周辺の紹介、千葉県内の他市での様子なども概要を紹介いたしました。それに伴い、山梨県の県立博物館、千葉県内では中央博物館大利根分館、千葉市、習志野市、鴨川市、館山市の博物館や教育委員会より、資料を実物又は画像データで借用いたしました。

展示の開催期間は令和4年4月23日～6月12日で、開館日数は45日、期間中利用者は1,943人でした。例年の企画展の人数に比べると減少しておりますが、アンケートや来館者の反応等を見る限りでは好評を得たと感じております。

ご報告は以上です。

**○小林副主幹** 今年度の学校連携について私から説明致します。資料から見ますと令和4年度の件数は減っております。ただコロナ感染の状況下での対応ということになり、今年度はリモート授業はありません。時期的なことがありますので、この資料に載っている数字は12月末日現在のものです。現在のところ1月には3件、2月には25件ということで、ほぼ昨年度の状況に近づいております。

内容につきましては、中学校の方は大体職場体験ということで依頼があるのですが、なかなか難しいということもあり。主に授業用の貸し出しですか、八千代市の戦争体験の出来事とかの資料を貸出しして授業で活用していただいております。

小学校については、大体3年生が中心になります。3年生は「地域の学習」という単元で昔の道具の体験、七輪とか火熨斗とか、洗濯板とかですね。あとは道具の説明、市のうつりかわりといったような感じで3年生が多いです。4年生になると新川の開削の歴史であったり、5年生になると災害関係の防災学習も含まれます。6年生になりましたならば、八千代市の歴史を活かした歴史学習というような出前授業があります。社会は3年生からなんですけれども、2年生は生活科なんです。例えば「伝承館のお仕事はどういったものがありますか？」といったことで小学生からのインタビューに答えるとか、そういったものも含まれております。小学校に関しましては9割の学校数の学校から依頼を受けておりますので、もう少しこちらからこのような出前授業の実践例があり

ますよといったPRをして、来年度はより幅広い活動をしていきたいと考えております。

以上で私の報告を終わります。

○野中資料調査研究員 続きまして、私野中から今年度の古文書の整理状況について報告をさせていただきますと思います。

今年度は3件ありました。米本の加茂家と勝田の松戸家、下市場の植村家となります。最初に加茂家なんですけれども、こちらには158点の資料がありました。主に古典籍ですね。江戸時代の版本などが中心となっております。

松戸家に関しましては、今のところ調査途上でして現在の所1,300点ほどあります。ただこれにはまだ地券などが含まれておりませんので、2,000件くらいになっていくのではないかと考えております。内容としましては、近現代の税金の収受関係の書類、土地売買の証文などが中心となっております。

最後に下市場の植村家ですけれども、こちらは3点でオビシヤの当番が分かるような一覧が帳簿になっておりました。

これら整理した資料については、市内の公民館講座あるいは古文書講座などで利用させていただきまして今後どんどん情報発信をしていきたいと思っております。

私の方からは以上です。

○中村館長 長くなりましたが、以上で(1)令和3年度事業報告、(2)令和4年度事業報告(中間報告)の説明となります。

○久留島委員長 ありがとうございます。事務局から報告のありました件に関しまして、何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

○齋木副委員長 学校連携について伺います。ご説明の中で「職場体験が難しくなった」というお話がありました。どんな点で困難があったのか伺いたいのと、博物館実習ができなくなったというのがどのような原因でどんな対策があり得るのかをお聞きしたいです。

○小林副主幹 ではまず職場体験のことについてお答えします。職場体験は学校の方から依頼があつてやるんですけれども、学校の方から諸事情によって、学校ごとによって感染状況も異なることがありますので、学校の方から「感染状況の結果今回は見送らせていただきます」という話になりました。

学芸員実習につきましては、当館に学芸員資格を持っている職員が少ないということと、問い合わせ件数が多いので、こちらの事業と照らし合わせて十分な実習を行うことが難しいことから、館長と相談した結果今回は見送らせていただくことになりました。

○小林委員 報告の中の学校連携の所の昨年度の博物館実習で7大学から受け入れたという話がありましたが、そのなかで東北芸術工科大学とか北海道大学とか。この学生達は八千代出身の学生ですか？広く北海道の方からも学生が来るというのは、この博物館が広く認知されているということなんですか？

○小林副主幹 学芸員実習の担当は野中ですので、野中の方からお答えさせていただきます。

○野中資料調査研究員 7大学の学生達は市内出身者でした。もともと郷土博物館に興味があった学生さん達です。過去にご来館された生徒さんだったようです。

○八巻委員 八千代市子ども育成連絡協議会の八巻と申します。実は私は大和田小学校のPTAもやっています。その中で今年が150周年だったんですね。その150周年の記念誌を作成するに当たって、郷土博物館さんにかなり足を運んで歴史を紐解きました。実は100周年の記念誌を作

ってから150周年までの間にまったく記念誌を作っていないと、その間の歴史が分からないということで。学校にも資料がありますけれど、学校に保管してある資料というのは保管状況が非常に悪い。例えば100周年誌のときに集めた資料は日の当たる廊下に展示している状況であるとか。あと、ここ20年～30年の写真がデジタル化されて、それらを保管するサーバーの容量が少なく、毎年それを処分してしまっていて、10年ぐらいの資料とか全く写真とかが集まらない状況なんです。戦後の部分とかは集めやすかったんですけど、近場の歴史というのはなくなっちゃうんじゃないかなということで非常に危惧しています。あと学校に教材とかで使っていたもので昭和の古い道具とかあるんですけど、それが処分されてしまうということで、学校にある歴史的資料の保存はどのようにしようと考えていますか。

○小林副主幹 実は私どもも大和田小学校の記念誌に携わってまして、大和田小学校の昔の校旗とかはこちらで預かっております。すでに収蔵している資料もありますし、けっこう依頼もありますので、学芸の方で協議をして館会議で決裁を頂いてから受け入れるという方向であるんですが、そういった資料があるのであればできる限りこちらでの保管を協議検討していこうと考えておりますので、学校の先生方と連携して調査していければと考えております。

○八巻委員 それとごめんなさい。今校旗の話が出たんですけど、実は大和田小の戦前の勾玉の模様の校旗があったんですけど、それが「あるはずだよ」というのを昔の地元の方に聞いて、「どこかにあるよ」というのを聞いて、調べて、調べて、調べたら、実は郷土博物館に保管されているという情報がやっと出てきたので。預けた学校内の問題かも知れないですけど、校旗を預けたということと当時の先生は知っていても、預けた事実というのが文書保存の関係で学校からはなくなっちゃうんでしょね、多分。それで預けている事実も知らないという。校長はじめ色々訊いても「預けてたんだね」と言う事実が文書保存の関係でなくなっちゃうと。預けていたというアーカイブがどうなっているか、学校教育の中でうちの歴史はこうなんだよというのを逐一更新できる仕組みがあればいいかなと思いました。

○小林副主幹 今博物館法の改正でデジタルアーカイブという話もあり、各博物館で今ある資料をどのようにデジタルで保管するかという問題がありますので今後の検討になっていくと思いますが、うちの博物館ではI.B. ミュージアムというのがありますので、資料がデータ化されているものがあります。それをしっかり整理整頓して「こういうのがありますよ」というのを、小中学校の先生はずっとはおりませんので、どのように伝えていけばいいのか館長と相談してやっていこうと思います。

○小林委員 資料収集と調査研究の方でお伺いしたいのですが、昨年度古文書修補を10回実施されたということで、この修補で使用した資料は数少ない実施回数の中で貴重なものから選ばれていると思うのですが、この修理した資料を市民の方に還元する方法ですとか、そういったことをどのように考えているのかお伺いしたいのと。

もう一つ。資料の方で写真を撮られた時にそういったものを調査研究の成果として発表とかはされているのでしょうか。

○野中資料調査研究員 古文書修補の資料選抜につきましては、古文書を多用する頻度によって優先順位をつけさせていただいております。とりあえずどんどん使っているものは痛んでいきますので、そこを中心に。あと重要度ですね。検地帳ですとか土地のことがよくわかるもの。あるいは昔名主さんとかが使っていた手習い本ですね。そういったものを今選んでやっております。

修補できたものの利用方法なんですけれど、これはまだできておりません。前回「古文書の正体」という企画展を私がやったんですけど、その時に修補の成果として一部利用させていただきました。今のところそういった感じで利用していくしかないのかなというところ。これは別の話なんですけど、白井市郷土資料館では修補が終わったものを速報展示として展示しております。そういっ

たものを参考にしながら今後できましたらそこも考えていきたいというふうに思っています。

○久留島委員長 白井市の例は確かに有名で、非常に修補もきちっとされていて千葉県の中でもかなり進んだところだと思います。

先ほどの話で、学校関係の資料については今後やはり重要な課題になるのではと伺いました。私の経験から言っても、最近子どもの数が千葉市内でも変わっているので学校が潰れるという危険性はまだあって統廃合の話はまだ進んでなかったんですけど、実際にそういう所っていうのは市町村にいくつかありまして、学校資料をどう遺すかというのは深刻な課題ではないかというふうに思いました。先生は代わられるので学校の資料の所在とかもなかなか継承していないし、学校で資料を目録にとって保管する体制が取られているかという、先生も忙しいので必ずしも取れていないのが現状ですね。そうした中で博物館あるいは教育委員会がやらなきゃいけない仕事の一つになっているのではないかなと私も思っておりますので、先ほど八巻委員が提起されたことも結構重要で。やっぱり小学校の資料を先生が見て、自分の小学校はこういう小学校なんだということを子ども達に教えることがすごく重要なことだと思いますし、先ほどおっしゃっていた最近20年というのはどこも同じで、現代資料をどう集めるか、何を集めていいのかというのが実ははっきりとわかっていないという状況は確かにございます。少なくとも学校単位でやっている行事の記録とかはきちっと残すようなことを教育委員会の方でもご指導いただきたい。それから博物館が率先して学校をこつこつ廻って資料を調査するようなことも必要なかなと思いました。もちろん計画的にやるしかないと思いますけれども。少しお考えいただければいいかなと思います。

○八巻委員 ちなみに、阿蘇米本学園に統廃合になって、阿蘇小学校にあったものとかは何か手を付けてらっしゃるんですか？

○小林副主幹 実は3月から調査研究に入りたいと考えております。私の方が担当する予定で、来年度のくらしのうつりかわり展のサブテーマで阿蘇米本の地域を取り上げていきたいと思っております。そこで教育総務課に許可をいただいて阿蘇小と米本小と米本南小に学芸担当2名で調査をして、まず何があるのかを把握し、そういったものを展示し、地域の方にお知らせをしたいと今企画検討中です。来年度1月から展示する予定です。

○久留島委員長 市民の方の興味を見ていますと、昨年の企画展で「学びを支えたもの」というのがパーセンテージでいうと1日平均83人で一番高いですね。そういうのを見ますと、身近な学びというのに市民の方も興味を持っていると思いましたので、統廃合というのが実は一番危険なんだと思いますけれど、是非手を打っていただければなと思います。私の経験で言いますと、高校の資料も千葉県内は結構厳しくなっていると思ったりしてまして、ある絵画サークルの先生の資料を調査した時に、それぞれの学校におられた時の資料をお持ちなんですけれど、それを高校に返そうとすると「受け取れません」という答えが返ってきたりする様な現状でございまして、学校の方も大変だと思うんですけど、学校の資料を大事に保存するということもぜひお願いしたいと思っております。私の方ではいくつか気づいた点がありますけれども先ほどのご説明でよくわかりましたし、市立博物館としての活動は課題はありますが十分よくやっておられるなと思えました。

(委員に) よろしければ他に質疑ございませんか。(なし) では皆さんから有意義な議題をいただきましたので、ぜひ来年度の活動に入れていただければと思います。それでは、この二つの議題に対してはご了承いただけたと考えてよろしゅうございますか？



(3) 令和5年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)

○久留島委員長 それでは、事務局より議題(3)について説明をお願いします。

○中村館長 それでは、私の方から令和5年度事業計画(案)について概要の方を説明させていただきます。

令和5年度につきましては、引き続き新型コロナウイルスの万全な対策をとりつつ戻りつつある郷土博物館利用者や市民への共同理解を図るため企画展等の各種事業を開催していきたいと考えています。

「2 資料」につきましては、前年度に引き続き市域を中心としたさまざまな資料の収集保管管理を行い、古文書などの資料修補や寄贈された図書資料などを活用していきます。

「3 調査研究」については、新型コロナウイルスの影響で市域の民俗行事が再開されない状況が多いですが、引き続き再開情報の収集を行いつつ、少しずつ調査研究や現地確認などを進めていきたいと考えています。

「4 展示」につきましては、企画展が1回となっております。これについてはですね、前館長の清藤が学芸員だったので、退職に伴い学芸員が一人減ってしまったことがありまして、企画展の方を1回にさせていただきました。それ以外の特別展示やロビー展示につきましては、現時点では令和4年度並みで計画しております。

「5 学校連携」につきましてはリモート授業よりも出前や館内見学が多くなっていることから、郷土博物館全職員で協力しながらできる限り受け入れるような形で進めていきたいと思っております。

「6 市民学習の支援」については、新型コロナの状況を見ながらさまざまな観察会や体験講座を令和4年度並みに計画しております。

「7 地域協働」につきましても、令和4年度にこれから実施する予定の伝統装束体験も来年度も実施する方向で計画しております。

「8 広報」についても引き続き、市のホームページの情報や広報やちよ、地域新聞等での情報発信を行っていきたくと考えております。

「9 博物館協議会」につきましては、来年度におきましても今年と同じような形で令和6年1月末から2月はじめに1回実施したいと考えております。

以上が、令和5年度の博物館事業計画(案)(骨子)となります。

○久留島委員長 委員の皆様から何かご質問ございますか?(なし) ちょっと私の方から。来年度の企画展示をやらないと聞いたんですけど、そういうことではなくまだ決まっていないということなんですか?

○中村館長 そうです。すみません。やる予定ではいるんですけど、考古の者が計画しているんですけど、具体的なものはまだ決まっていないということです。

○久留島委員長 そうですか。常設展示も重要ですけど、やはり企画展示は博物館の方たちが普段調査研究している成果を発表する貴重な機会ですので、それはもちろんやっていただくんですけど。それから「3 調査研究」のところで先ほどのお話を伺っていますと民俗調査しか今までやっていませんですけど、少し学校資料の調査というのもここに入れたらどうでしょうか?来年度から計画を立てて学校資料の調査を進めるんだということを調査研究に入れていただければ進むんじゃないかなと思いました。先ほど今年からやられるというお話も仰ってましたよね?ならばそういうことも含めて進めていくのもいいんじゃないかなと思いました。その辺も考えていただければ。(委員に)私の方が先にしゃべってしまいましたけど、何かあれば。

- 八巻委員 広報なんですけど、やはり一般の市民からするとなかなか「まなびネット」とかは知らないと思うんですね。八千代市のSNSの発信というのが最近盛んになってきて、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムを始めたということで、その辺との連携とか、独自のSNS発信というのは可能ではないですか？
- 中村館長 現状では情報メールは発信しておりますが、やはり登録していないと受信できないという状況になりますので、市の方のツイッターやインスタグラムの方で、関係部署に確認して、発信できるようであれば発信していきたいと考えています。
- 八巻委員 あと観光協会もフェイスブックを盛んにやられているので、可能であればそれとの連携も是非していただいて。せっかくいいものがいっぱい飾ってあったりするのです。ぜひぜひ発信をしていただければと思います。
- 小林委員 ホームページの方は、教育委員会の形式で発信していると思いますが、以前のホームページに博物館のいろんな成果ですとか展示の内容とかが載っていたと思いますが、今はそういうのはなくなっているわけですか？
- 中村館長 現在はホームページの形が市の方で統一されてはいるんですけど、広報広聴課とまた相談してそういうものが載せられるページも作れなくはないと思うんですけど、ちょっとそこらへんも相談してやっていきたいと思います。昨年までは教育委員会のホームページの中に郷土博物館のページがありましたのである程度自由なフォームで掲載できていたと思うんですけど、今後市の広報と確認しながら作成していきたいと思います。
- 久留島委員長 他の博物館も、私がいる国立歴史民俗博物館も遅れているわけですけど、やはりインターネットやホームページを活用しないと広がっていかないし、若い世代はそういうものを見て情報を得ていますので、それはやっぱり必須かもしれないですね。新しい博物館の在り方としてはそういうものを使いこなすというのも必須だと思いますので、是非ご検討いただければと思います。
- 齋木副委員長 「3 調査研究」の所が「民俗行事」ということになっていますが、博物館の事業概要などその他を見ますと、例えば「4 展示」の方だと「自然・歴史・文化・産業」となっていたり、「1 博物館事業の概要」も『新川流域の自然と人々とのかかわりの変遷』をテーマとした常設展示」となっているように、民俗だけでなく幅広い分野を博物館は網羅していると思うんですけど、これからの民俗以外の調査研究の様子はどうなっていくのかをお伺いしたいと思います。
- 中村館長 調査研究に関しましてはそれぞれのジャンルがありまして、それぞれ独自に担当するジャンルごとに進めているんですが、企画展の中で進めているというものがちょっと多いもので、そういう意味では、来年度は考古の者がいますので企画展と一緒に常設展示の方も含めながら調査研究を進めていくという形になっています。民俗に関しては、市内の民俗行事というものがどんどん失われているというのがあって特に大きく出ているというのがあるんですけど、ほかの分野についても資料を見ながら順次進めているという状況ではあります。具体的に何をやるという所までは至ってはいないというところではありますね。
- 齋木副委員長 ちょっと質問することを躊躇しちゃったところがありまして。この概要の中にスタッフがないんですね。この資料だと、どんな人員でこの事業を行うかというのが読み取れないので。是非次回からはどんな専門の方が主として事業を進めていて、ボランティアさんとか外部の方からどういう協力を得てやっていくのかというようなものがあると、少し聞きやすいと思いますので。よろしくをお願いします。

○久留島委員長 私も実は、予算とか基本的な資料がないことには気づいていたんですけど。今齋木さんがおっしゃっていただいた通り、どのような人員で何をするかというような。博物館法の改正ではないですけども、極めて基本的なことです。八千代市の方で博物館活動にどの程度予算を出し、何ができるのか。調査研究をしろって言ったって予算がなければできませんし。そういうことを含めて計画の中に入れていただいた方が、あるいは要覧とかを出していただいた方が、そういう形にならないと。ほかの所は大体ついていますので。齋木さんに言っていただいたので。できるだけ言わないようにはしていたんですけど、それは重要なことだと思いますので。博物館の全容を教えてください、市の中での博物館事業の位置づけを教えてください、それが重要なことで。そういうことで資料を少し付け加えていただければと思います。今わかる範囲で人員はどんな方がいてということはわかりますか？席次表で教えていただければある程度分かると思います。たとえば学芸員資格の方が減ったというお話は結構深刻な問題だと思いますけれども。

○中村館長 小林の方が学校担当で、一番はじめの常松が考古を担当しています。真ん中の川名が民俗を担当してまして、野中の方が古文書を担当しています。予算につきましては昨年度並みに要求しておりまして、来年度につきましては墨書土器の複製の予算が付きまして、そこらへんで新たに展示を変えることができるかなと思っております。基本的な予算で大きい部分は、設置からかなりの年月が経っておりまして、エアコンなどが壊れているということがありまして施設的な修繕の方は予算の都合がついたというところ。調査研究につきましては、なかなか予算を取りづらいたということがありますので、基本的には時間をかけて調べることができることを重視していきたいと思うんですけど、調査に必要な消耗品とかは予算はかなりありますので、修補に使う紙や糊についてのようものはかなり潤沢に予算がついているかなと思います。

○山本教育次長 確かに、基本的な情報が審議会に提示できておりませんので、ご指摘いただいた内容につきましては、別にまとめた資料などがございますので、人員の体制や予算の執行の状況などをまとめた資料を今後ご用意させていただいて、そういった基本的な部分を押さえながらご議論いただけるようにご用意させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○久留島委員長 ありがとうございます。おそらく先ほど齋木さんがおっしゃったことを含めてですけれど、やっぱり博物館としての体制というのを充実させないと、結局一部の方に負担が行くし。それから、ここを見ていると古文書の学習会とか市民の方が参加する場も結構あるわけですね。そういう方たちとかボランティアの方たちも含んだどういう活動が可能なのか。是非、少し見取り図を作っていただければなど。お願いします。

○小林委員 何点かあるんですが、まずは展示についてお伺いしたいのですが、まずは常設展示のところですが。可能な限り展示を変えちゃうのかということですね。今日先ほど常設展示を先ほど久しぶりに見させていただいて随分と展示が変わっているなという印象を受けて素晴らしいなと思っているんですけど。リピーターを呼び込むためにリニューアルは必要なことだと思うんですけど、本来ですと開館から30年は経ちますし、そろそろリニューアルはありかなと思っているんですけど、おそらく少しずつリニューアルされると思いますが、そこで気づいた項目を一つ追加してほしいと思います。村上遺跡のところですね、歴博さん(国立歴史民俗博物館)の研究成果の村上遺跡が歴博さんに展示されていますけれども、それが山川出版社の高等学校の日本史Bの教科書に掲載されておりまして、そこには千葉県八千代市の名前が書いてあるんですね。つまり全国の高校生が八千代の名前を知っている。是非村上遺跡の展示を充実させていただけると、全国区的な扱いになるだろ

うと思っはいるんですが。そういう全国的な話を展示に取り入れて市民に広めていただけるといいなと思うんですが。屠龍の話も是非紹介してほしいと思っているんですが、そういう話も是非知っていただければと思います。

もう一つ、リモート授業を昨年はやっていたと伺いました。リモートも将来的に重要だと思っておるんですが、その成果と課題をご紹介いただければ。

もう一つ、地域協働のなかで、今年度は数年ぶりに多文化交流が開催された。私は地域博物館というどうしても地域に特化してしまう、もちろんそれが大前提ですが、そこから出発して県レベル、国レベル、世界レベルといったふうに視点を拡大していくというのもアリかなと思うので、多文化交流in八千代のような視点も持っていただきたいなと思います。これは感想ですが。

以上、常設展とリモートの二点をお話しただければと思います。

○**小林副主幹** まずは博物館の全国的に於ける課題だと思うんですけど、私は千葉県博物館協会の調査研究委員会に所属しております、そこでご意見を聞きますと、収蔵庫という枠が決まっている中でどんどん受け入れてしまうと物がいっぱいになってしまうと。それをどう整理整頓するか、何を残すかということがここ最近の課題となっています。例えば同じものが5個あったとしても、環境だったり、その物がどう扱われていたかという違いがあると、一つあれば残りの物はどう処理するかということが課題ですね。収蔵庫にあるものを今後どのように整理整頓していくか。あとデジタルアーカイブにすることで何が市民に還元できるか。個人情報取り扱いも含まれていますので、そこがちょっと課題となっております。次年度の課題ですね。

多文化交流in八千代はここ2年間コロナウイルスの感染状況で中止になっておりました。博物館でやる意義というのもそろそろ検討しなければいけないというのもございます。ここは郷土博物館なんですけど、萱田の飯綱神社にある文化伝承館も博物館としての運営の中に入っております。文化伝承館では茶道体験など色んなものもあり、いろんなグループとの関係もありまして、今年度多文化交流は茶道体験をやったりとかもあったのですが、ここでやるべきことをどうしたらいいかと検討したり、あるいは伝承館で多文化交流をやった方がいいのではないかといい、あとは本庁の観光推進課といったところでも多文化交流は色々やっているの、単発でやるのではなく色々連携して地域の団体とも考えながらやっていくということも検討していますが、来年度も色々やり方・あり方考え、あるいは本庁の方でも博物館の予算があるので、それも全部ができるわけではないというものの、来年度検討する方向になっております。以上です。

○**久留島委員長** 常設展示のリニューアルの話はどうでしょう？

○**中村館長** 私の方でお答えします。全体のリニューアルの件につきましては、確かに30年経つてますし、先ほどのエアコンの件なども含めて施設的な面でも厳しい中で、いずれ考えなければならぬと思っておりますので、すぐにではないですけど、最近リニューアルされた浦安さんとか、新たに建ったところとか見学させていただいて考えたいなと思います。うちは倒叙法でやってますけれど、最近は見せ方というのもまた変わっていると思っておりますので、そういうことも含めて今後リニューアルに向けて調査研究を進めていきたいと思っております。

それから、リモートの成果と課題ということなんですけれど、担当の方から聞いているのは、機械で結構なクラスをやるので良いという話も聞いているんですけど、子どもさんの反応が分かりづらいというのがあってそういう意味ではやりづらかなという話を聞いております。それから、通信が安定していないのもありまして、授業していて切れてしまう場合もあって、そこらへんうま

くやる必要があるかなと思います。それと、リモート授業は博物館からというより教育委員会からやった関係がありまして、道具を多くは持っていけないという課題もあります。

○久留島委員長（齋木副委員長に）県の中央博もリニューアルをやるんですよね？

○齋木副委員長 はい。県の中央博もまさにリニューアルを検討している最中ですが、非常に長い長い道のりがかかりまして。ですから、まずはすでにリニューアルをしているところの見学というか視察というか、勉強から始めるというのはまさに王道であろうと。本当に時間がかかるので早めに勉強を始めてきちっとした計画を立てるところから。まずはすぐに始められた方がいいと思います。お金も掛かりますので。是非お勧めします。

○八巻委員 出前講座とか市民学習の所ですすね、来たものに対しての対応という風にはなってしまうんだと思うんですけど。市民ギャラリーさんなんかは、近くでやっているイベントに市民ギャラリーの人が自ら出て行ってワークショップなどを開催しているんですけど。博物館は、資料を見る限り、学校に行ったり博物館に来てもらうといったものが中心になっているのかなと思って。できればここに人を呼ぶための講座というか「この続きは博物館で！」みたいな「博物館でもっと詳しいのが見れるよ！」みたいな、出前のものじゃなくても自ら出て行って宣伝してもらって。先ほどのリニューアルの話も、ここにいっぱい人が来ている状況であれば稼働率も上がるので、当然市の方も動いてくるのではないかなと思いますので。是非、たくさんの方が来場できるような仕掛けとしてこの講座を利用してみたらいいんじゃないかと思います。さっき小林先生からあった教科書に載っているのもすごくいいネタだと思うんですね。博物館に行くと教科書に載ってるものが見れるよということとは是非是非そういうものをそこで発信してもらった方がいいんじゃないかなと思います。

○小林副主幹 今回の件につきましては、資料2の4ページの㊸講師派遣にございます。これは公民館や中央図書館にも出向いていますけれども、博物館にある資料の中で地域の歴史～古文書関係でこういうことがありましたよということでは野中を講師として派遣したり、あるいは今年度は企画展で富士講の関係の講座を緑が丘のイオンに川名を派遣して富士講についての出前の講座を何度か発表させていただきました。もちろん学校中心だけではなく、地域の長寿会とかからご要望があったりすればそのような形で出ることもございますので。ただ内容もこういった内容があります、こういった依頼を受けますよ、というのを広く公民館とかいろんなところにアピールできれば、八巻委員のお考えのことももっとももっとできるのかなと思いました。以上です。

○久留島委員長 かなり前向きな積極的なご意見をいただいているように思います。私の方も国の予算がないというのがあって、リニューアルはなかなか難しい現状がございます。第5・第6展示室が今リニューアルしているんですけども、予算が来ないので6年ぐらい掛かってやっとできるようになったんですね。そういう意味では、予算も大変厳しい中でおそらく郷土博物館も苦勞されていると思うんですけども、さっき出てきた課題の中で一言言わせていただくと、やはり長期的には常設展示をどうするか、博物館そのものをどうするかということをおそらく市の方でも考えていただくべき時期に来ているのかもしれない。30年というのはかなり厳しい状況です。それからもう一つは、さっき幾つか課題を出していただいて、やっぱり博物館が少し外に出ていく、宣伝をしていく。そのためには今いらっしゃる人員ではちょっと難しいのではないかな。人を増やす、しかもちゃんと正規の職員の方を増やす、あるいは学芸員をちゃんと採る、そういうことを含めて、少し市の方で計画を立てていただいた方が。折角博物館法が変わる、博物館の新しい在り方が求められている中で。しかも八巻さんがおっしゃった通りかなり市民の方も期待している。そういうこと

を是非伝えるような仕組みを考えていただければと思います。先ほどもおっしゃった通り、村上遺跡の方はもう少し強調していいかなと思います。ただ、歴博の方もそういうのをちゃんとやっていけませんので、リニューアルで少し変わってしまいました。そういう意味でまだ課題はいっぱいありそうですので。今まで見ていて3年度も4年度も5年度も概要を基本的には全部同じようにしていているわけで。それはそれで重要なことだし、十分よくやっておられると思うんですけども。今後を少し考えると、ちょっとその辺も含めて是非市の方で考えていただけるといいなと感じました。

(委員に) 私が勝手に申し上げましたけど、付け足すことがございましたら。よろしゅうございますか? (なし) 今日頂いたご意見はすごくいいご意見なので、是非ちゃんと議事録にまとめていただければと思います。

それでは議題についてはいろいろなご意見もいただいて、これでご了承いただいたということでよろしゅうございますか?

○委員4名 (異議なし)

○久留島委員長 それでは、3つの議題についてはご了承をいただいたものといたします。

視察

(1) 令和4年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～昔の道具とくらし～」

○久留島委員長 それでは、本日は、令和4年度のくらしのうつりかわり展のご案内をいただけるというふうになっていますけれども、この後視察をさせていただけるのでしょうか?

○常松主任主事 この後、私が企画展示室までご案内しまして、展示内容についてご説明いたします。なお視察終了後この学習室に戻りますので、お荷物はそのまま置いておいていただいて結構です。ではご案内いたします。

(企画展を視察)

(視察終了後)

○久留島委員長 (委員に) 視察についてご意見があれば。よろしいですか? (なし) 私がちょっと気になったのは、家事労働をする絵が全部女性なんですよね。それが何故なのかということ、問わないといけない時代になっている気がします。女性のジェンダーとは云いませんけど、女性労働がなぜ高度経済成長の時に家庭になっていくのかということ、問う必要が本当はあるのかな、というふうにちょっと思いました。集められてお聞きしたものは非常に面白いので、もう少し説明を今みたいな解説をされながら、その中で少し考えるようになればいいなと思いました。

予定の時間を少し過ぎてしまいましたけど、本日会議で予定されていた議事と視察については予定通り終了したということで、委員の皆様のご協力にはあらためて感謝申し上げます。以上を持ちまして議事を終えますので、事務局の方から連絡事項等あればお伝えください。

○中村館長 事務局の方からは特にありません。

本日は、ご多忙の中、令和4年度第1回郷土博物館協議会にご出席いただき、ありがとうございました。会議は以上になります。お帰りの際は、お忘れ物等無いようお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

○一同 ありがとうございました。